社団法人　工学院大学校友会　第121号　48巻第1号　平成12年4月

校友会報 121

2000年1月 乙女峠からの富士山

KOGAKUIN UNIVERSITY

目　次

ごあいさつ
南雲　芳夫……1
2000年を迎え、前進し続ける学園
北郷　　薫……2
佐世保重工業と私
姫野　有文……3
松本典作と草創期の建築界
初田　　亨……5
存在価値ある学園の構築を目指して
中澤　宣也……9
支部だより……12
事業報告、予算、決算……15
総会開催のお知らせ……17
お知らせ……18
校友の皆様へ……19
島根大会を開催して
平野　久雄……20
校友会百周年記念行事……22

ごあいさつ

社団法人　工学院大学校友会
会　長　南雲　芳夫

校友会の皆さん、ご活躍のことと存じます。

校友会の会長として、私はいよいよ任期の最後の年を迎えることになりました。夢中で過ごしたこの８年間であり、残る１年の間に、校友会のさらに実り多き活動のための諸々の引継ぎをしなければ、との思いで一杯です。振り返ってみれば、この足かけ９年間は「ほんの瞬時の時間」でした。そして、学園に対する熱い思いばかり先行し、校友会の立場から、学園に対して果たして何か貢献できたのだろうか、という反省ばかりが去来する今日この頃です。

この間に、平成８年には工学院大学の面目を一新する『新宿テクノキャンパス』の完成を見させていただき、さらに、八王子校地を中心とする『学園５ヶ年計画―ジャンプ21』もその進展を目の当りにすることが出来ました。完成に向けて着実に歩んでいることを喜んでいます。また、学園115周年記念として記念体育館を創ることも決まり、そのプロポーザルもすでに発表されています。

学園の一世紀を越える歩みと共に、私達の校友会も昨年（平成11年）百周年の記念の大会を、由緒ある出雲の地で開催することが出来ました。第十三回全国大会・島根大会です。大会実行委員長の平野久雄支部長には大変な御尽力を戴き、感謝に堪えません。

国生みの神話が誕生した出雲の地で、校友会が百年という記念の年を迎え、さらに新時代に向かっての新たなる誕生の精気を、なにか言葉では言い表せない「逞しく生きる根源の力」のようなものを注いでもらった気がしています。

もとより、校友会の活動の目的は、校友相互の親睦をはかりながら、学園と校友とをさらに緊密に結びつけ、学園の更なる発展に貢献することにあります。その一方で、学園がその実学という伝統を生かして、日本の実社会の中堅を担う多数の校友に「仕事に生かせる生きた情報・新技術」を提供してもらえることが出来るようになると素晴らしい、と夢を描いています。しかも、新しい時代に向かって、我が学園が発信する技術というのはきっと、グローバルに通用するものに違いない、と信じています。

来る５月の校友会の総会には前文部大臣有馬朗人先生を講師に迎えて新しい時代の大学像を語って頂く用意をしております。新しい時代のテクノロジー教育に関して啓発的な刺激になると思います。校友の一人一人の願いは、学園が発展すること。そして私達が学園を誇りとすること。当然であり、それだけにその願いというのは強くて、固結のかたいものです。

校友会活動を担う次代の人々の活動に大いに期待しております。ありがとうございました。

2000年を迎え、前進し続ける学園

学校法人　工学院大学
理事長　北郷　　薫

校友の皆様方におかれましては、御健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

本学園の「校友会報、121号」は紀元2000年代に出版される最初の会報となりました。

本学園はご承知のとおり、明治20年（1887年）に創立されましたので、本学園は創立以来113年目の年として平成12年、紀元2000年の年を迎えたのであります。

この113年間の道程は決して平坦なものではなかったことは、校友の皆様方もよくご承知のとおりであり、「学園百年史」にも詳しく記述されているとおりであります。

この長い年月にわたり、本学園内に設立された全ての学校の卒業生の皆様の団体である「工学院大学校友会」が、本学園に与えて下さった御支援は誠に大きいものがあります。

全学園を代表して厚く御礼申し上げます。

学園の歴史が長いことは良いことではありますが、歴史の時間が長いことだけでは不十分であります。

何時も、新しい目標を立て、その目標に向って前進しながら、学生、生徒諸君を教育、指導する実績の集積が学園として大切なことであります。

この意味におきまして、昭和62年（1987年）に起工して平成７年（1995年）に全工事を完了した新宿校地再開発による本学園の新宿・高層棟・中層棟新校舎の建設は大きい意義がありました。

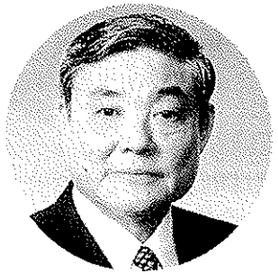
この新宿都心にある高層棟校舎は本学園が21世紀に向って新しい前進を続けることを明示するシンボルであります。同新宿新校舎の完成後、本学園は新しく「学園５ヶ年計画―ジャンプ21（1996～2000年）」を立て、同計画を実行して参りました。同計画の実施進行度は「プログレスレポート」として理事会から発表されていますが、同計画は大局的に見て予定通り進行しています。

八王子校地における「総合研究所アドバンストマテリアルセンター」が平成10年度から、「テクノクリエイティブセンター」が平成11年度から活動しています。また、八王子校地の新教室棟は平成12年度から使用可能となる予定であります。さらに引続いて高校・中学校の新校舎も着工予定であり、待望久しかった大学の新しい体育館の建設も予定されています。

これらの建物の建設だけでなく、大学第１部には情報工学科と建築都市デザイン学科が平成11年度から開設され多数の入学志願者を集めました。新学科の設立の活動は今後も続けられています。また、高校、中学校および専門学校の改革も進められています。

どうか、校友の皆様方におかれましては、これまで通り本学園をご支援下さいますようお願い申し上げます。

校友の皆様方のご健勝と益々のご活躍をお祈り申し上げます。



佐世保重工業と私

～佐世保の歴史を追って～

佐世保重工業株式会社　社長　姫野　有文
（昭和38年電気工学科卒）

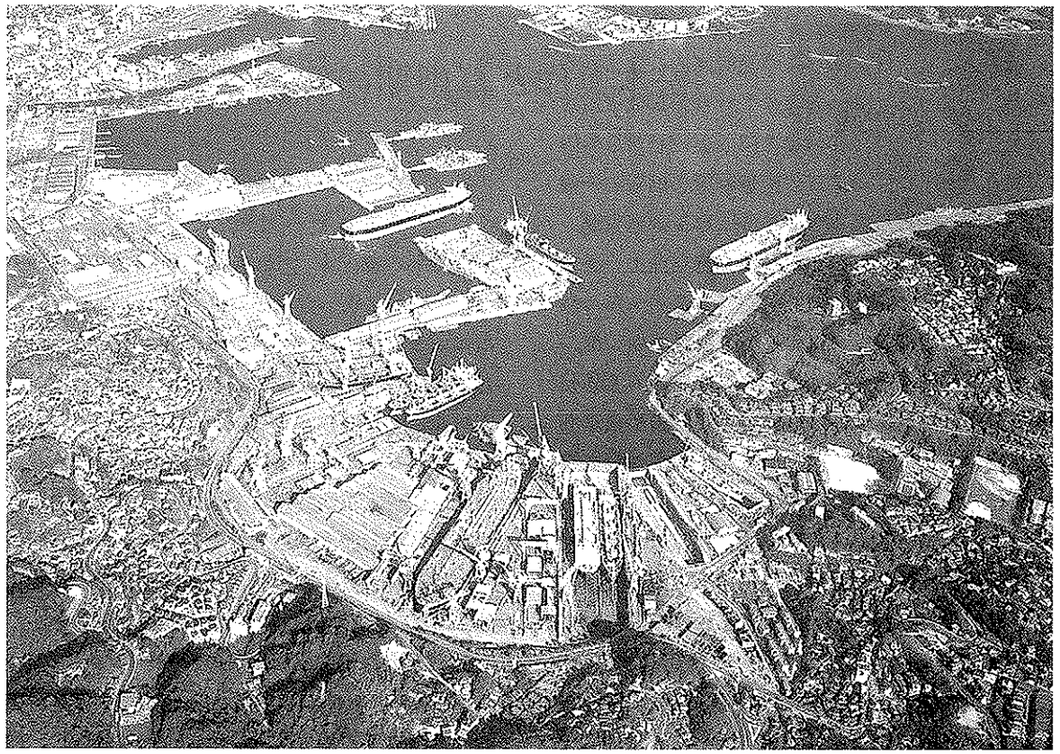
私は、昭和38年３月工学院大学電気工学科を卒業し、同年４月佐世保重工業株式会社へ入社しました。今年３月で37年の在籍となります。一昨年６月社長に就任し、また昨年４月、第14代佐世保商工会議所の会頭に就任しました。

佐世保を人一倍愛するものとして、地元企業に職を得、また地元商工会議所の要職に携わることにより地域の発展に寄与できることは、何よりも幸せであります。

佐世保について少しばかりその歴史と当社の経緯について述べてみたいと思います。

佐世保は、明治19年（1886年）に軍港が設置されるまでは、まだ戸数850戸ほどの九州西端の寒村に過ぎなかったのですが、明治22年（1889年）７月、佐世保海軍鎮守府が開庁、明治36年11月に佐世保海軍工廠が発足。明治37年（1904年）２月、日露戦争の勃発とともに佐世保は最前線基地となり、海軍の施設は一段と拡充強化され、活気に満ち、設備も拡大の一途を辿り、やがて第二次世界大戦へと突入して行きました。このように佐世保は海軍とともに栄え、人口35万人余の軍港都市に発展してきましたが、昭和20年８月には、終戦を迎え、佐世保海軍鎮守府は60年の歴史を閉じました。戦後、佐世保海軍工廠は米占領軍に接収されましたが、昭和21年２月、平和産業への転用が図られ、同年10月には旧佐世保海軍工廠の造船・造機部門の施設を借用した佐世保船舶工業株式会社（現在の佐世保重工業㈱）が設立されました。昭和25年（1950年）２月には朝鮮動乱が勃発し、当社は多くの米艦船の修理を手掛けましたが、この朝鮮動乱を契機とし、日米安全保障条約が締結され、平和商工都市を目指していた佐世保は新たに米軍の前線基地となり、旧海軍施設は引き続き在日米軍へ提供され、米軍の施設優先使用権が設定されました。また昭和25年の警察予備隊（現在の海上自衛隊佐世保地方総監部）の創設に伴い、佐世保は商工、米軍、海上自衛隊それぞれが共存する港湾都市として発展してまいりました。また今日ではハウステンボスや西海国立公園を有する観光都市であるとともに、人口24万余を有する長崎県北の中核都市でもあります。

当社は昭和27年４月、講和条約発効により船舶建造禁止の制約が解除されるに従い、直ちに新造船建造に着手し、旧海軍工廠の巨大な設備と優秀な技術者を引き継いだことにより、これまで数多くの新造船を建造してまいりました。昭和36年７月、社名を佐世保重工業株式会社に変更し、国有財産の払い下げを受けるとともに、総合重工業としての発展を目指し陸上工事部門の強化・拡充を図りました。また昭和37年10月には、当時世界最大のタンカー「日章丸」（132,334ＤＷＴ）を竣工させ、一躍世界に造船王国日本の名を高らしめたのであります。その後、数多くの巨大タンカーを建造してまいりましたが、昭和48～49年のオイルショック以降造船不況が到来し、当社は幾多の困難を乗り越え、今日に至っています。



造船所全景

当社は、船舶、機械、鉄構の三事業部門を経営の柱とし、総合重工業として地域の基幹産業としての役割を担い、地域経済に貢献しつつ、着実な発展を目指しておりますが、今日の極東アジアの政情不安を反映して，米海軍の軍備がかってないほど増強され、当社の生産設備が大きく阻害されてきております。こうした中でも阻害要因を取り除き、民間、米軍、海上自衛隊がより良き共存・共栄を図ってこそ、佐世保の発展はその歴史的経緯から真の発展につながるものと思っておりますので、このお役に立つことが今日私に課せられた使命でもあります。

私の信念は、一期一会を大切にし、真心を持って接する、ということであります。人は強い信念を持つことにより大抵の困難は乗り越えられると信じております。

略　歴

昭和38年３月	工学院大学電気工学科卒業
同年４月	佐世保重工業株式会社入社
昭和58年11月	船舶営業部長
昭和59年６月	取締役就任 専務取締役、副社長を歴任
平成10年６月	代表取締役社長に就任
平成11年４月	佐世保商工会議所会頭に就任
〃	米海軍佐世保基地内大学実行委員会委員就任
〃	佐世保自衛隊後援会会長就任
〃	㈶長崎県国際交流協会理事就任

姫野有文氏は、佐世保重工業株式会社の代表取締役社長に就任されました。

工学院大学は、昭和24年に改組・新制大学として発足し50有余年の歴史を有し、幾多の人材を日本の産業界に輩出して来ています。この歴史の中でも、この度のことは、誠に慶ばしく、校友会報に執筆をお願いしたものです。ご多忙中にもかかわらず、ご寄稿を戴きましたことに感謝申し上げます。　（広報部　記）

松本與作と草創期の建築界

工学院大学建築学科教授
工学博士　初田　亨

工手学校を卒業

東京駅の開業式が行われたのは大正3年（1914）12月のことである。この時代は、日本の産業がある程度の発達をとげ、中産階級の人々が社会を動かしはじめた頃である。やがて丸の内がビジネスセンターとして大きく成長し、通勤時のラッシュが深刻な問題になっていった頃でもある。東京駅を設計した辰野金吾は、工部大学校造家学科の第一回卒業生で、卒業後イギリスに留学、帰国してから大学教授として後輩を育ててきたほか、民間に設計事務所を設立するなど、明治の建築界をつくりあげる中心的な役割を果たしてきた人物である。その辰野金吾のもとで、東京駅の実質的な仕事に関わっていたのが松本與作である。

松本與作が、工学院大学の前身である工手学校を卒業したのは1907年（明治40）7月である。卒業後辰野葛西事務所に勤めたが、松本が最初に辰野金吾に会った時、辰野は「勉強しに来るのであって給料をもらうつもりなら来てはだめだ」と言ったという。

辰野金吾は、工手学校の設立にも大きく関わっている。工手学校が設立されたのは1887年（明治20）である。工手学校は、帝国大学総長である渡辺洪基が、工手の必要性を辰野金吾に話したことから具体化し、工学会の賛成をえて設立された。設立当初は、土木、機械、電工、造家、造船、採鉱、冶金、製造舎密の8学科で、1年半で卒業する夜間専門の学校として出発している。

工手学校の教員は、ほとんどが帝国大学を卒業した工学士で占められていた。造家学科（後の建築学科）の教務主理をつとめた人には、藤本寿吉、片山東熊、辰野金吾、妻木頼黄、曾禰達蔵、中村達太郎、新家孝正、塚本靖、内田祥三、大沢三之助、大熊喜邦、藤島亥治郎がおり、日本の建築界をつくってきた人の名前がほとんどみられる。その他、教務主理にならなかった人まで含めれば、建築界に名をとどめた人々のほとんどがなんらかの形で関与している。

東京駅

東京駅の工事

辰野葛西事務所で、松本が最初に関わったのが東京駅（当時は中央停車場と称していた）の仕事である。最初の月末に2円貰ったが、松本はそのお金をもって丸善に行き本を買っている。松本の本を買う習慣はその後も続き、数か月間の給料をためて買った本もあるという。東京駅の設計が本決まりになった時、辰野が皆を呼んで、「これで事務所は3年大丈夫だから」と言ったのを松本は覚えている。日本の建築界をつくりあげてきた辰野金吾でさえ、民間の設計事務所を維持していくのは大変な時代だったのである。

東京駅の設計の途中から事務所に入った松本が関わった仕事は、図面作成途中で他へ移っていった人の書きかけの図面を仕上げたり、設計変更した箇所の図面の訂正や書き直しの作業であった。

東京駅の工事が始まってから、彼は現場で原寸図を書く仕事をしている。原寸図は6尺（約1.8m）四方の板をつくってもらい、その上に書いている。辰野が木炭で書いた上を松本が清書してつくったが、木炭の線を消すと、「君、線が違っている」と言われ、大工に再び板を削ってもらい書き直したことも何度かあったという。できあがると辰野が日付とサインを入れて完成である。工事の終りには、原寸図の数は600枚にもなった。

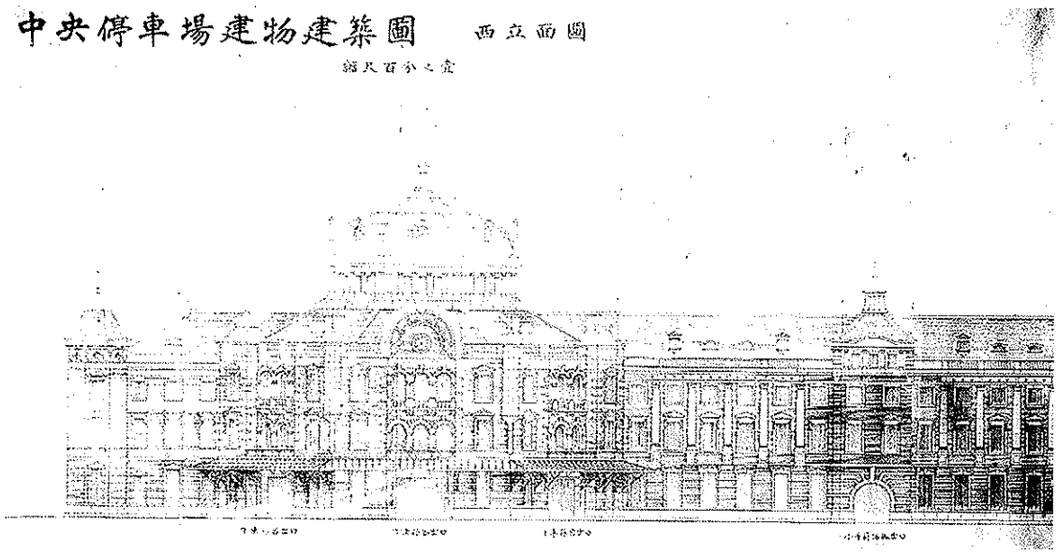
第一相互館の現場管理

東京駅の工事が完成した年に、辰野葛西事務所に第一生命本社（第一相互館）の仕事が入ってきた。第一生命の社長矢野恒太が辰野を訪ね、京橋に建てる建物の設計を依頼したのである。2人の話し合いの中で決められたことは、京橋の付近は2階建の土蔵造りの建物が多いが、20年後には大きな建物が並ぶ。その時にみすぼらしくない建物を建てるということであった。街並みを考え、1階に店舗を入れることも決められた。

建物の高さをどの位にするかも問題になった。高さについての法的規制がまだつくられていない時代である。どれだけの高さにすべきか何の基準もなく、結局、敷地の大きさから間口、奥行とも20間四方の建物が建てられるので、高さもその位にして四角い建物にすれば、地震にも倒れないだろうということから高さが決められた。何の基準

中央停車場建物建築圖　西立面圖

縮尺百分之壹



もなく、すべて手さぐりで回答を出さねばならない時代だったのである。

辰野の設計により、何人かが建物の図面を引いた。辰野のスケッチに基づいて意匠設計図をまとめる人と、構造を設計する人が別々におり、松本の仕事は、彼らの下で図面をつくることだった。また、図面の複写は現在こそ簡単になったが、この頃には、青写真用の原図をつくるために、からす口で墨入れした図面をつくる必要があった。

松本が中心になってまかされたことは、建築現場の担当である。最初の現場監理の責任者が鉄骨工事の途中で事務所をやめたため、以後、松本が主任になって工事の監理を進めている。第一次世界大戦が始まった翌1915年（大正４）から行った建設工事は、建築材料の不足から３年の予定を大幅にこえて６年の歳月がかかった。イギリスのドルマン・ロング社に発注した鉄骨を積んだ船が運搬の途中、ドイツ軍に地中海で沈められ、急遽アメリカのカーネギー社に鉄骨を発注し直したり、極度なインフレで大きな問題が生じたりもした。工事監理も大変であったが、工事をする側も大変であった。工事現場で、松本が現場監督と取っ組み合いの喧嘩をしたこともあったという。

第一相互館（京橋）

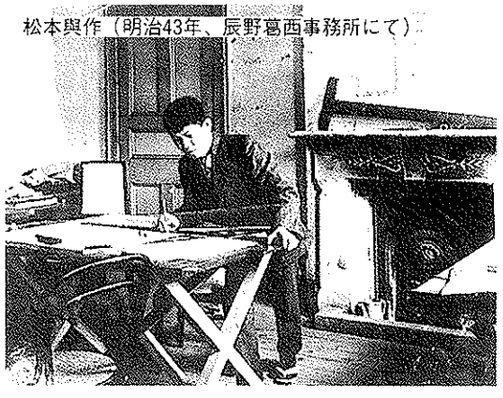
建築家を目指して

そんな中で、松本與作は建築家になる夢を育て続けていったのである。1919年（大正８）６月に行われた議院建築のコンペの時には、工手学校時代に世話になった木子幸三郎の誘いを受けて、図面の作成を手伝っている。もちろん、現場での仕事が終わってからの、夜の作業である。

工手学校の卒業生には役所で活躍している人が多くいた。しかし、なかでも活躍した人が多く出たのは請負会社である。明治時代に卒業した人で、請負会社の理事や取締役になった人だけをみても、清水組には内山熊八郎や福島政吉が、竹中工務店には瀬戸強三郎や福本常太郎が、大林組には植村克巳が、大倉土木（現・大成建設）には松田登三郎がいる。また、木田組（建業）の木田保造のように請負会社を設立し、木田式深礎工法の開発など、建設工事の発展に大きな影響を及ぼした人物も多い。日本の草創期の建築界を実質的につくりあげてきたのは工手学校の卒業生だ、といわれるゆえんもこのような点にある。

設計の分野で活躍した人もいる、関西建築界の中心メンバーの一人として活躍した設楽貞雄がその一人である。設楽は、1889年（明治22）に工手学校を卒業した後、宮内省内匠寮の技術者などを経て建築工務所を設立、京都電灯会社本社の設計や大阪の新世界の建設に関わっている。また関西建築協会（後の日本建築協会）の創立委員になるなど、関西建築界の重鎮として活躍している。

工手学校を卒業した後に留学して、さらに建築の勉強を続けた人も多くいた。明治時代にアメリカに留学した人だけをみても、1891年（明治24）の福井房一をはじめに、宇都宮石太郎、柴田悠四郎、酒井祐之助、清水末吉、横山八十七郎、能村智二、村井三吾、下條禎一郎、金田彦艸、矢野収蔵、伊藤文四郎、瀬戸強三郎、石川彦四郎、田中種久、太田（吉田）宗太郎、小野武雄が知られている。留学した人の中には、建築家を目指す人もいた。松本與作も建築家になる夢を育て、留学することを考えていたのである。この頃には、工手学校の卒業生で欧米に留学し、日本に戻って活躍している先輩も何人かいた。1905年（明治38）の卒業で、その後ドイツに留学して横浜で設計事務所を設立し、川崎銀行や第百銀行などの設計をした矢部又吉もその一人である。松本の描いた夢もそのような道であった。


松本與作（明治43年、辰野葛西事務所にて）

欧米に勉強へ

師の辰野金吾が亡くなってから２年後の1921年（大正10）に第一相互館が完成している。第一生命への出向を終え、辰野葛西事務所へ戻ろうと考えている時、松本は矢野恒太に呼ばれて意外な話を聞いたのである。松本の将来について、辰野と矢野で約束ができていたというのである。松本に第一生命の人間になって営繕課をつくってもらいたいということ、そして、留学に必要な費用は第一生命で出すから、アメリカだけでなくヨーロッパへもまわって建築を勉強してきなさいというのである。

松本の海外への建築の勉強は、船でサンフランシスコに渡り、アメリカから始まった。最初にカリフォルニア大学のあるバークレーに３か月下宿し、外国での生活の方法を学んでいる。シカゴでは建築家から都市計画の図面を見せてもらったり、建築現場を見学している。ニューヨークでは、シカゴの建築家に書いてもらった紹介状をもって、当時アメリカで最も活躍していたマッキム・ミード＆ホワイト建築事務所を訪ねて、建築を案内してもらったり図面をもらったりしている。ほかに、郊外の田園都市なども見学している。アメリカでの松本の印象は、「アメリカ人の良いと思って薦める建物は、高層の建物ではなくて昔の建物が多かった」という意外な点にあった。彼がアメリカへ行ったことの意味は、最先端の建築を勉強することにあったが、実際にアメリカに来てみると、アメリカの建築家の自慢する建物は、ヨーロッパの様式建築の影響を受けたものばかりだったのである。

その後、船でイギリスに渡っている。イギリスではロンドンを基点に、建築や田園都市を見学している。さらにパリに渡り、パリを中心にスペイン、イタリア、スイス、ドイツなどをまわっている。旅行して１年位たった頃、パリで関東大震災を知ったのである。日本に行く最初の船に乗って日本に帰り、それからは第一生命営繕の建築家として一生を賭けていったのである。

略　歴：1947年東京生まれ、1969年工学院大学建築学科卒業。現在、工学院大学教授、工学博士、専攻は日本近代建築史・都市史。建物を通して都市の変遷史を展開、テーマの中心は明治から現代まで。1997年建築史学会賞受賞。著書に『東京 都市の明治』、『百貨店の誕生 ―― 都市文化の近代』（筑摩書房）、『職人たちの西洋建築』（講談社）、『モダン都市の空間博物学 ―― 東京』、『模倣と創造の空間史』（彰国社）などがある。

存在価値ある学園の構築を目指して

学校法人　工学院大学
総務・企画担当常務理事　中澤　宣也

卒業生の皆様には、日頃格別のご支援を賜っておりますこと、厚く感謝申し上げます。

さて、皆様新しいミレニアムをどのようにお迎えになりましたでしょうか。

新しい世紀を目前にして、社会のあちらこちらで変革の波が襲ってきております。学校経営も同様であります。就学人口の減少は著しく、2009年度には大学全入の時代が来るといわれております。また、規制緩和も学校行政に及んできており、従来の文部省管轄の護送船団方式から、各学園がそれぞれに独自性を打ち出し、自助努力によって存在を主張していく方向に、大きく舵取りが変って参りました。

学園もこのような社会状況を踏まえ、21世紀を展望した活力ある学園造りを目指して、様々な努力を傾注しております。

次年度（2000年度）は、現在実施中の学園5ヶ年計画「ジャンプ21」の最終年度にあたります。したがって、今期理事会では「ジャンプ21」の総括をするとともに、次の中長期計画「(仮称）スタート21」の基礎プラン作成に着手したところであります。これまでは、新宿校地の再開発を契機とし八王子校地の再々整備等々、施設設備面の充実に力を注いで参りましたが、これからは、内容面でより一層の充実を図らなければならない時期にきていると考えます。

理事会ではこのような認識のもと、来るべき21世紀に「存在価値ある学園」（大学創立50周年記念式典での山口章三郎名誉教授・法人顧問のお言葉）として、継続的に社会的認知を受けるべく努力して参りますので、卒業生各位におかれましては、これまでにも増してご支援賜りますようお願い申し上げます。

以下に1999年度の学園の動きを法人、各学校別にご紹介します。

法　人

前段にも述べましたように、これからは学園のソフト面の充実をはかるために知恵を絞る必要があります。前年度は広報部門の充実を図るために広報部を新設しましたが、昨年12月に理事会直結の企画室を試行的に発足させ、学園の知恵を結集していきたいと考えております。また、学園としては近年はじめて、広報や受験業界で豊富な経験を有する中堅職員を３名公募採用しました。さらに、外部での経験豊かな人材の登用も考え、開かれた組織として将来計画の策定を進める所存です。

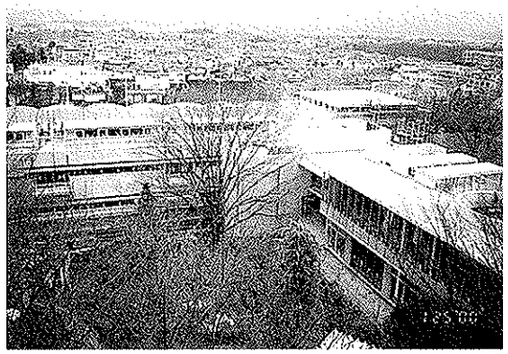
また、学園財政は現在までのところ健全に推移してきましたが、大学の臨時的定員の返却や、少子化の影響が顕著になってきたことから、2000年度においては学生納付金が減少に転ずると予測しております。その結果、学園の将来投資への基本金積み立て余力が、急速に失われる虞があります。今後は、帰属収入に占める学納金の割合を減少させ、寄付金等それ以外の収入を増やすよう努める必要があります。校友会のご協力をお願いする次第です。

◆新教室棟の工事順調

八王子キャンパスに建築中の大学新教室棟の工事は順調に進んでおります。

2000年４月の新学期から使用開始の予定です。同建物は、情報処理演習室（70人）4室と附属管理室、80人教室3室、120人教室3室、180人教室1室、ゼミ室(20人)3室からなる教室棟と、学生が自由に使える、ラウンジ、ギャラリー、自習室などの学生棟からなるモダンな建物です。

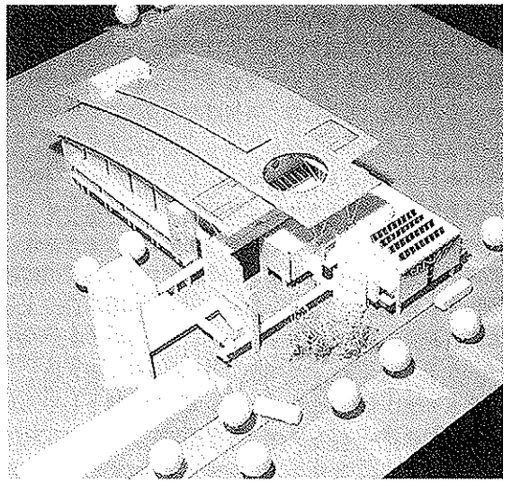
場所は、南門からのメインストリートに沿った、１号館と現体育館の間の緑地で、キャンパスの顔になる建物です。



◆学園創立115周年記念体育館設計者が決定

既にご存知のように新体育館の建設にあたり、校友を対象に昨年夏プロポーザル・コンペを実施しました。48件の応募の中から審査委員会（委員長・大橋学長）で厳正に審査の結果、(有）ＬＩＮＫ建築工房（代表者田中栄作氏：建築学科1979年卒業）が設計者に選ばれました。同体育館は、公式バスケットコート2面の広さの屋内体育館、柔道場、剣道場、アスレチックジムを有し、さらに移動観客席を備え、入学式、大学祭等の行事にも兼用できる施設となります。延面積は3,700㎡の予定です。

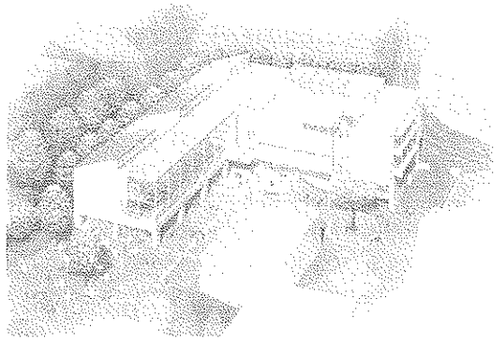
同体育館をより機能的なものとするために必要な付加的費用について、卒業生をはじめ、大学在学生の父母、専任教職員、企業・団体等に寄付をお願いすることとし、



現在募金活動を行っております。皆様のご協力をお願いする次第です。

◆中学校・高等学校の校舎工事方針を決定

1996年4月から再開した中学校は、高等学校校舎の一部を間借りする形で運営して参りましたが、中学HR教室と情報演習室、理科室、音楽室、技術教室等の特殊教室、食堂からなる建物を独立して建設することとなり、案が決まりました。述べ床面積は4300㎡ほどで、2001年4月から使用開始を予定しております。



大　学

1999年度の主なできごとを箇条書きで述べます。

◆情報工学科、建築都市デザイン学科の新設２学科順調にスタート

1999年4月から、情報工学科および建築都市デザイン学科が新たにスタート致しました。両学科とも長年、コース制で運営しておりましたが、学科昇格を機会に教授陣を強化し、また最新の設備機器を導入して教育・研究効果をあげています。

	定　員	H.11年度志願者	H.12年度志願者
情報工学科	120人	2,511人	2,357人
建築都市デザイン学科	70人	1,950人	1,533人

◆大学開設50周年記念行事

1949年の新制大学発足とともに大学を開設した本学は、1999年4月に開設50周年を迎えました。昨年10月30日に、大学開設50周年記念行事を行い、記念講演会（山口章三郎顧問）と学科内容の展示会（新宿校舎アトリウム）を開催し、50周年を期に更なる発展を期すことを確認しま

した。

◆工学院大学白書の発行

規制緩和とともに、大学も自己点検を実施し自らを改革する努力が求められております。その努力のひとつとして、「工学院大学の現状と課題」と題する本学最初の本格的白書を発行し、大学など関係機関に送付するとともに、今後の大学改革のための材料にする予定です。

◆国際交流の強化、北京化工大学との協定締結

国際交流委員会を組織し各国との交流に努めておりますが、このたび新たに北京化工大学との協定が締結されました。さらにこの３月には、本学学生を派遣しあるいは先方からの学生を受け入れていた、フランス ESIEE グループの École Supérieure de Technologie Électronique および米国カリフォルニアの Harvey Mudd College、Pitzer College との間でも交流協定が結ばれ、北京航空航天大学、サンチャゴ大学とあわせ協定校は６校となりました。

◆理科教育振興施策

標記施策のひとつとして定着した第6回「理科論文募集」では、応募高校数６７校、応募論文８１編で、優秀作については創立記念日に招待し表彰と論文発表の機会を持ちました。また、小・中学生を対象とした第6回「大学の先生と楽しむ理科教室」を八王子キャンパスで開催し、二日間に7,824人が参加し、夏の行事としてすっかり定着しました。

●検討を始めた将来構想

大学をめぐる厳しい環境の中で、個性ある大学として社会的評価を得て存続発展するため、学部、大学院の改変等を法人と大学が同じテーブルで議論し、具体的な方針を策定する場を設置し、具体的に検討を開始しました。次の2テーマと第2部の今後が中心課題です。

◆新学科設置計画

2001年度から機械工学科国際コースを独立させ国際基礎工学科を、化学系2学科を改組し、第3学科としてマテリアル科学科を設立することとし、準備を進めております。

◆新学部設置計画

2003年4月を目標に新学部を設置し、2学部にすることの是非について検討を開始しております。早急に概略的な方針を決める予定です。

中学校・高等学校

1996年度に再開した中学校では1999年度に応募者が激減しました。そこで、中学校再開の理念を再確認し、教育指導の充実を図るべく体制の整備に努めております。また、工学院大学への進学希望者の期待に応えるだけでなく、国公立大学を含む他大学への進学を希望する生徒、文科系学部を希望する生徒等、多様化する進路志望の希望に対応できるよう、中高一貫教育の整備・充実をはかり、教諭の指導能力の向上のための研修強化や、大学との連携教育に力を入れる所存です。

さらに、2002年度からの新習指導要領の下での特色ある教育課程の編成、学校5日制への対応についてワーキンググループを作り現在精力的に検討を進めております。

前記の新校舎では、情報教育をひとつの特色とすべく、情報演習室を充実する予定ですが、それに先行して、昨12月より中高全生徒に電子メールのIDを与えました。これは全国的にも最先端をいく試みで、生徒達は夏休みにホームステイしたオーストラリアの友人とクリスマスメールの交換を楽しみ、インターネットを体験しております。在籍して良かったと喜ばれる学校となるよう、尚一層の努力を傾注する所存です。

専門学校

本校は前身の工手学校設立当時から職業人の実践教育を主眼としてきました。しかし大学全入時代を迎え、旧来の工業系専門学校の枠組みでは、その将来的展望は大変困難な状況にあります。社会のニーズにあった分野への学科の再編、生涯教育、資格賦与教育の充実等々へ方向転換が必要です。しかしながら、現実は大変厳しい状況にあるといわざるを得ません。そのような状況の中で、嘱託講師制度の導入や兼任講師制度の改定等により、新しい技術開発の現場経験者を登用する道をつくり、教育指導の充実に努める所存です。卒業者の大学編入への道が緩和され、本大学第2部への編入の道が開かれました。また、2000年度より専門学校で必要な単位の半数までを、他の大学・短大等の教育機関での修得単位で置き換えることも可能になりましたので、生涯学習の場として、より学びやすい環境を提供できるように学則の改定も検討しております。

●支部だより

平成11年８月７日島根県松江市において校友会100周年記念第13回全国大会（島根大会）が約500人の校友、ご家族、来賓の先生方を交え盛大に開催されました。本大会の開催に向け家族ぐるみでご尽力頂いた島根県支部の皆様、側面から精力的にご支援頂きました近隣の支部の皆様ありがとうございました。本大会が島根県という地理的なハンディを乗り越えて大成功となった背景として、大会関係者の献身的な準備と全国会員の皆様の暖かいご協力があってのことですが、一方ご婦人・ご家族の皆様の協力も忘れてはならないと思います。広島、兵庫、東京と全国大会も回を進めるに従いご婦人・ご家族同伴で出席される会員の数は増えており、また、全国各地で開催されている支部活動の中にも家族参加のイベントが増えてきております。今後の校友会の活動の輪を広げていく上で一つの方向性を示してくれた大会であったと思います。

組織部部長　松為　迪夫

平成11年度支部総会開催状況（2000年２月末日現在）

４月18日　山口県支部、島根県支部
５月９日　愛知県支部
５月15日　鳥取県支部
５月16日　広島県支部
５月22日　岩手県支部
５月23日　栃木県支部
６月５日　埼玉県中央支部
６月13日　八南支部
６月18日　山梨県支部
６月19日　宮城県支部
６月20日　埼玉県西支部
６月26日　高知県支部
７月２日　東芝支部
７月３日　山形県支部、川崎支部、横浜支部、湘南支部、相模支部、西湘支部
７月４日　熊本県支部、千葉県支部
７月10日　新宿支部、大阪支部
７月28日　中野支部
９月５日　静岡県支部
９月11日　北海道支部
９月17日　兵庫県支部
９月25日　大分県支部、青森県支部
10月16日　福島県支部
11月３日　新潟県支部
11月５日　東京支部
11月26日　沖縄県支部
12月18日　京滋支部
３月19日　石川県支部

平成12年度支部総会開催予定（2000年２月末日現在）

支部名称	開催日	開催場所
山口県支部	４月16日(日)	国際ホテル宇部
岩手県支部	５月20日(土)	盛岡
栃木県支部	５月21日(日)	ホテル・ニューイタヤ
広島県支部	５月21日(日)	ますゐ亭
埼玉県中央支部	６月３日(土)	ＪＡＣＫ（ジャック大宮）
鳥取県支部	６月10日(土)	水明荘
大分県支部	６月10日(土)	つるみ荘
西東京支部	６月11日(日)	八王子労政会館
山梨県支部	６月16日(金)	シティプラザ紫玉苑
宮城県支部	６月17日(土)	
埼玉県西支部	６月18日(日)	紫雲閣
島根県支部	６月24日(土)	温泉津温泉(ユノツオンセン)
中野支部	６月24日(土)	中野サンプラザ
高知県支部	６月24日(土)	魚竹本店
熊本県支部	６月25日(日)	産業文化会館　６階
神奈川県下５支部	７月１日(土)	新宿校舎　28階
東芝支部	７月７日(金)	新宿校舎　28階
新宿支部	７月15日(土)	新宿校舎 第３・４会議室
大阪支部	７月15日(土)	東洋ホテル
山形県支部	７月	オーヌマホテル
北海道支部	９月９日(土)	三川屋会館　本館
青森県支部	９月30日(土)	津軽の西海岸の民宿
東京支部	10月14日(土)	新宿校舎　28階
日本電気支部	10月18日(水)	芝クラブ
新潟県支部	11月４日(土)	上越地区
沖縄県支部	11月17日(金)	エッカホテル
福島県支部	11月25日(土)	山水荘

平成12年度全国支部長会を、９月９日～10日に開催致します。詳細につきましては追って支部長様にご連絡を差し上げます。

北海道支部現況報告

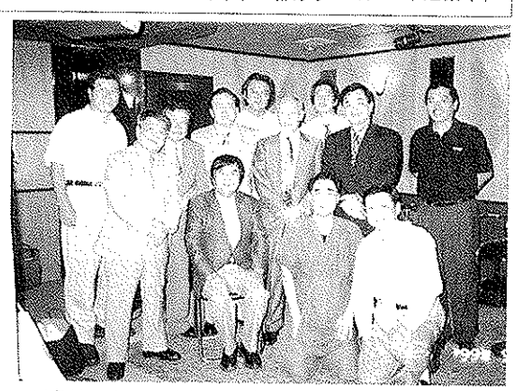
支部長　本間　徹夫（昭和34年建築卒）

蝦夷地から北海道と呼ばれて130年。

当時、武士、農民たちが道外より渡来して活躍し、その結果、道民のルーツは道内のみならず、全国いたるところに存在するようだ。

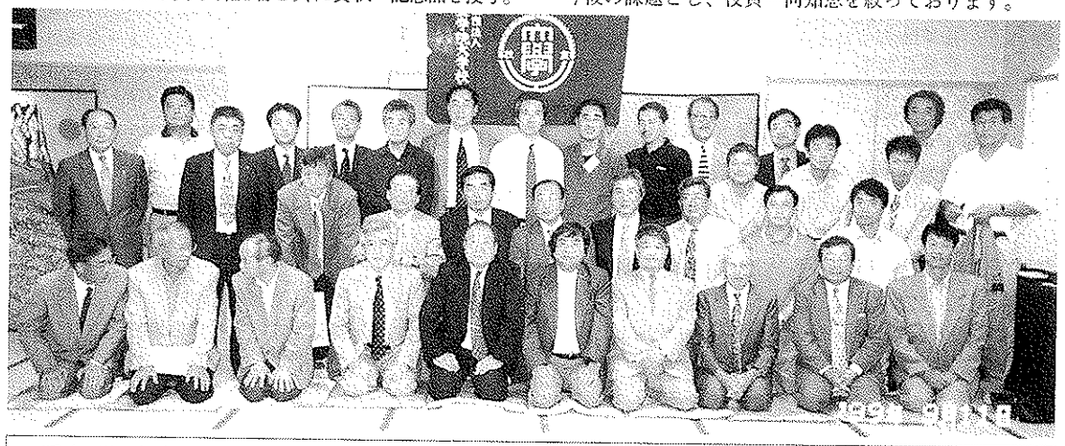
昭和30年に支部結成、45年の歴史を持ち、国土の約四分の一の面積を踏みしめて約400名の支部員が全道で活躍しております。支部の集まりに飛行機も利用する広大の中、当然限られた顔ぶれでの総会で常に20名前後が常運の現況を何とか改善したく役員会で討議、先ず、支部結成当時からの規約を見直し、役員の増強（各学科ごとに副支部長・幹事を任命）葉書による居住地確認の実施。名簿の整理と、これを基に市区町村別居住地一覧表作成、役員に配布。既に地域単位の活動が報告されております。毎年９月第２土曜日を総会開催日とし、当日『淀橋会』名のゴルフコンペも開催、好評です。

昨年の総会より、褒賞制度を設け、此のたびの創立115周年記念体育館プロポーザルに支部の西村武氏が優秀賞に入賞したことを賞し、他1名と共に賞状・記念品を授与。



ご多忙のところを遠路ご参加頂きました望月教授、有難うございました。

この総会に、36名もの参加者が有意義な一時を過ごすことができ、更なる参加者の増員と平均年齢の若返りを今後の課題とし、役員一同知恵を絞っております。

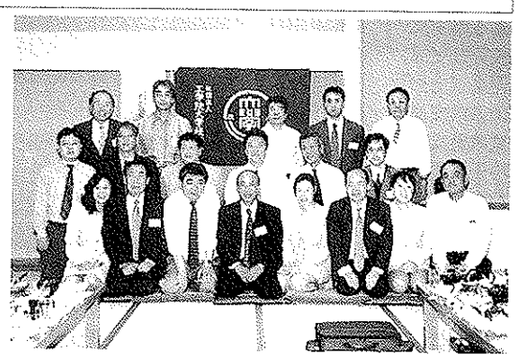


愛知県支部雑感

支部長　島林　政夫（昭和43年化工卒）

愛知県支部の活動状況につきましては校友会100周年誌に掲載致しましたので割愛させて頂きます。支部活動はいたって低調であり、何とか活性化を図ろうと、総会出席の皆様のご意見もあり本年度総会のご案内は本部からの名簿記載者全員に配布しようと、２月１日をもって450名への出欠の往復ハガキを発送したところです。今年度（３月５日）開催の支部総会へ多数の参加を期待する次第です。

校友会報の他支部の活動内容を拝見し、活性化のための企画案等を参考にしながら伝統ある（愛知県支部発足は昭和28年）支部活動を支えて下さった諸先輩の活動を絶やすことなく発展させるのが私の使命と思っております。



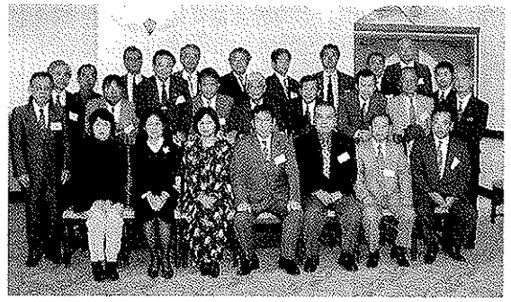
毎年返信ハガキに会員の家族の方から訃報の連絡があることは残念に思うと同時に校友の一員としてご冥福を祈る次第です。

本年、１月22日の校友会100周年式典・新年懇親会に参加して、昨年の全国大会を開催されました島根県支部の平野様を始め多数の方々と再会でき、昨年の感動が改めて蘇る大変有意義な時を過ごすことが出来ました。ご同伴の奥様方のなんと晴れやかな達成感に満ちた喜びの笑顔。まさしく支部会員の内助の功ここにありと思い、また一面うらやましくも思える光景に出会い、私事のような思いがした次第です。本部主催の感謝を込めた慰労会にも私自身が島根県出身者であることも幸いし思いがけなく参加させて頂き、一層の校友としての交流を深めることが出来ました。中でも我が出身高校の出雲工業高校の校長先生に小村先輩がおられたことは驚きであり、校友の活躍が幅広くまた身近にあると感じ、改めて校友の一層の親睦を深める必要にせまられた次第です。

沖縄県支部の活動レポート

平成11年11月26日（金）、那覇市のエッカホテルにて、平成11年度沖縄県支部総会（淀橋会）が開催されました。参加者は、同伴の婦人を含めて30名。

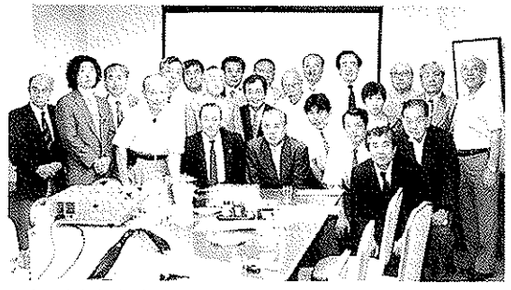
例年よりちょっと少なめでしたが、歌や踊りも出て盛会でした。その席上、９月20日の台湾大地震に対し、支部として10万円の義援金を贈ったとの報告がありました。



従来の日曜日に変えて初の金曜夜の開催で、都庁友の会や大学院生も多数参加し、大変な盛会となりました。

東京支部総会（H11.11.5）

山口県支部総会（H11.4.18）



中野支部総会（H11.7.28）

平成11年９月20日台湾を襲った大地震。幸いにして校友に大きな人身災害はなかったもようです。

しかし家財等被害を受けられた方もおられ、報と同時に義援の手を差し伸べられた支部の皆様、ありがとうございました。

平成11年度事業報告

平成11年度の主な事業内容は、例年どおり学園への援助活動、講演会、全国支部長会、新年懇親会、会報・卒業生名簿の発行等を行いました。本年は全国大会を島根県で開催、総勢500名の参加がありました。

本年度は、本会の前身である「工手学校同窓会」が発足してから丁度100年になりました。これを記念して８月７日に100周年祈願祭、１月22日に100周年式典を開催致しました。式典には総勢320名の参加がありました。

本会の社会的使命である学園に対する援助活動は、大学設立50周年に50万円、専門学校卒業式200回記念に200万円を寄贈致しました。学生生徒に対する奨励金約133万円、学生生徒活動に約208万円の支援を行いました。

講演活動は、総会当日、専門学校講師最勝寺靖彦先生に「風水と空間」という演題で講演を戴きました。全国大会では島根県立女子短期大学長藤岡大拙氏に「古代の出雲」の演題で講演を戴きました。前日には島根県埋蔵文化財調査センター所長宍道正年氏に埋蔵物の説明を戴きました。100周年記念式当日、本学理事内田盛也先生に「知的資本と明日の大学」という演題で講演を戴きました。

全国支部長会は８月７日島根県松江市にて開催、例年の通り活発な議論が交わされた。

本年度の各支部総会は、３月現在36支部で開催され、総勢731名の出席がありました。

新年懇親会は、１月22日に新宿校舎28階で開催。出席者は来賓も含め320名でした。最近は学園関係者のほか、大学後援会・専門学校後援会・高等学校ＰＴＡの役員も参加されています。

９月20日に台湾で大地震が発生、前台湾支部長周詩傑さんの地元が震源地でした。本会では30万円の見舞金をお送り致しました。

会報発行は、発行部数61,000部、現在は住所判明者には全員発送しております。卒業生名簿は毎年発行しております。

平成12年３月31日現在、本年度新たに正会員になられた新卒業生2,542名（大機械437名、大応化376名、大電情499名、大建築427名、専門405名、高校319名、中学79名）を含め、住所判明の会員は約61,000名になっています。

校友会の行事や活動の情報をインターネットでどうぞ！

ホームページアドレス　http://www.mesh.ne.jp/kkoyukai/

メールアドレス　kkoyukai@mx5.mesh.ne.jp

平成12年度収支予算書(案)

平成12年４月１日から平成13年３月31日まで

（単位：千円）

△印は前年度より減を示す

科目	予算額	前年度予算額	増減
１収入の部			
基本財産利息収入	120	120	
会費収入（６単体）	46,260	44,919	1,341
協力会費収入	4,000	4,000	
寄付金収入	50	50	
雑収入	700	700	
特定資産取崩収入	25,000	75,000	△50,000
当期収入合計	76,130	124,789	△48,659
前期繰越収支差額	3,211	3,840	△ 629
収入合計	79,341	128,629	△49,288
２支出の部			
●事業費	(56,760)	(33,380)	(23,380)
学園援助費	32,000	2,000	30,000
学生・生徒活動援助費	1,500	1,250	250
学生・生徒奨励金	1,350	1,350	
会報・出版費	9,330	9,330	
会報印刷費	2,530	2,530	
発送作業費	830	830	
郵送費	5,870	5,870	
取材費	100	100	
印刷費	2,800	2,800	
支部関係費	4,130	4,530	△ 400
維持会費還付金	900	1,300	△ 400
支部出張費	1,700	1,700	
支部総会費	700	700	
支部配布費	780	780	
支部関係雑費	50	50	
人件費	5,100	5,100	
給与手当	4,600	4,600	
福利厚生費	500	500	
特別事業費	500	6,970	△ 6,470
全国大会100周年経費	0	1,000	△ 1,000
100周年引当預金支出	0	570	△ 570
全国大会引当預金支出	500	5,400	△ 4,900
消耗雑費	50	50	

科目	予算額	前年度予算額	増減
●管理費	(12,710)	(15,910)	△ 3,200
総会費	1,200	1,200	
本部会議費	1,300	3,800	△ 2,500
その他の会議費	2,600	3,300	△ 700
人件費	5,100	5,100	
給与手当	4,600	4,600	
福利厚生費	500	500	
旅費・交通費	40	40	
通信費	500	500	
振替手数料	100	100	
事務用品費	600	600	
消耗品費	60	60	
印刷製本費	70	70	
修繕費	200	200	
賃借費	280	280	
対外費	100	100	
慶弔費	300	300	
公租公課	60	60	
雑費	200	200	
●資産取得支出	(500)	(500)	
資産購入支出	500	500	
●特定資産支出	(1,600)	(80,600)	△79,000
協力会費引当資産支出	0	3,000	△ 3,000
会館建設引当資産支出	0	2,000	△ 2,000
退職給与引当資産支出	600	600	
学園施設援助基金支出	0	74,000	△74,000
奨学資金積立基金支出	1,000	1,000	
●予備費	(2,000)	(2,000)	
当期支出合計	73,570	132,390	△58,820
当期収支差額	2,560	△ 7,601	△31,820
次期繰越収支差額	5,771		

平成11年度収支計算書

平成11年４月１日から平成12年３月31日まで

（単位：円）

科目	予算額	決算額	差異
【収入の部】			
基本財産運用収入	(120,000)	(1,698)	(118,302)
基本財産利息収入	120,000	1,698	118,302
会費収入	(44,919,000)	(44,893,000)	(26,000)
会費収入	44,919,000	44,893,000	26,000
協力会費収入	(4,000,000)	(2,670,500)	(1,329,500)
協力会費収入	4,000,000	2,670,500	1,329,500
寄付金収入	(50,000)	(3,833,040)	(△ 3,783,040)
寄付金収入	50,000	3,833,040	△ 3,783,040
雑収入	(700,000)	(1,835,626)	(△ 1,135,626)
受取利息・配当	650,000	712,653	62,653
雑収入	50,000	1,122,973	△ 1,072,973
特定預金取崩収入	(75,000,000)	(93,000,000)	(△18,000,000)
長期預金取崩収入	75,000,000	93,000,000	△18,000,000
当期収入合計(A)	124,789,000	146,233,864	△21,444,864
前期繰越収支差額	3,840,181	3,840,181	0
収入合計 (B)	128,629,181	150,074,045	△21,444,864
【支出の部】			
事業費	(33,380,000)	(31,003,831)	(2,376,169)
学園援助費	2,000,000	2,700,000	△ 700,000
学生生徒活動援助費	1,250,000	2,082,000	△ 832,000
学生生徒奨励金	1,350,000	1,328,276	21,724
会報印刷費	2,530,000	2,433,900	96,100
発送作業費	830,000	840,670	△ 10,670
郵送費	5,870,000	5,564,430	305,570
取材費	100,000	68,971	31,029
印刷費	2,800,000	3,297,052	△ 497,052
協力会費割戻金	1,300,000	1,420,950	△ 120,950
支部出張費	1,700,000	1,656,105	43,895
支部総会会費	700,000	273,000	427,000
宣伝費	780,000	50,000	730,000
支部関係雑費	50,000	6,300	43,700
給与手当	4,500,000	2,747,900	1,752,100
福利厚生費	600,000	512,163	87,837

科目	予算額	決算額	差異
百周年引当支出	5,400,000	4,364,913	1,035,087
全国大会引当支出	1,000,000	1,103,060	△ 103,060
全国大会百周年経	570,000	524,510	45,490
消耗雑費	50,000	29,631	20,369
管理費	(15,910,000)	(15,952,666)	(△ 42,666)
総会費	1,200,000	1,037,096	162,904
本部会議費	3,800,000	3,312,368	487,632
その他会議費	3,300,000	3,779,206	△ 785,206
給与手当	4,500,000	4,672,570	△ 172,570
福利厚生費	600,000	602,346	△ 2,346
旅費・交通費	40,000	63,900	△ 23,900
通信費	500,000	928,028	△ 428,028
振替手数料	100,000	72,429	27,571
事務用品費	600,000	641,062	△ 41,062
消耗品費	60,000	17,850	42,150
印刷製本費	70,000	49,650	20,350
修繕費	200,000	3,549	196,451
賃借費	280,000	256,058	23,942
対外費	100,000	60,000	40,000
慶弔費	300,000	253,000	47,000
公租公課	60,000	17,918	42,082
雑費	200,000	185,636	14,364
固定資産支出	(500,000)	(0)	(500,000)
資産取得支出	500,000	0	500,000
特定資産支出	(80,600,000)	(99,600,000)	(△19,000,000)
協力会費引当支出	3,000,000	1,000,000	2,000,000
会館建設引当支出	2,000,000	5,000,000	△ 3,000,000
退職給与引当支出	600,000	600,000	0
奨学資金引当支出	1,000,000	19,000,000	△18,000,000
学園施設引当支出	74,000,000	74,000,000	0
予備費	(2,000,000)	――――	(2,000,000)
当期支出合計(C)	132,390,000	146,862,497	△14,472,497
当期収支差額(A)-(C)	△ 7,601,000	△ 628,633	△ 6,972,367
次期繰越収支差額(B)-(C)	△ 3,760,819	3,211,548	△ 6,972,367

（注）△印は予算比超過となる金額である。

平成11年度貸借対照表

平成12年３月31日現在

（単位：円）

資産の部	金額	負債及び正味財産の部	金額
1. 流動資産	22,530,658	1.流動負債	110,207,548
2. 固定資産	263,397,910	2.固定負債	4,985,600
		3.正味財産	170,735,420
		（うち基本金）	(20,000,000)
合計	285,928,568	合計	285,928,568

平成11年度財産目録

平成12年３月31日現在

（単位：円）

資産の部	金額	負債及び正味財産の部	金額
流動資産	22,530,658	負債	
1.現金預貯金	8,599,653	1.一般預り金	145,548
2.短期有価証券	13,931,005	2.在学生会費預り金	104,928,000
固定資産	263,397,910	3.未払金	5,134,000
1.基本財産引当預金	20,000,000	4.退職給与引当金	4,985,600
2.什器備品	2,309,510	正味財産	170,735,420
3.電話加入権	102,800	（うち基本金）	(20,000,000)
4.長期預金	240,985,600		
合計	285,928,568	合計	285,928,568

社団法人 工学院大学校友会

第55回評議員会
第44回総　　会 開催お知らせ

会長　南雲　芳夫

日　時　平成12年5月28日（日）12時30分～16時30分
場　所　工学院大学　新宿校舎3F
　　0312教室　大階段教室
議　案　第1号　平成11年度事業報告、収支決算報告並びに財産目録承認の件
　　第2号　平成12年度事業計画（案）並びに収支予算（案）承認の件

（注1）本誌に同封の郵便はがきにより、折返し出欠の有無をご回答ください。
はがきには、50円切手をお貼り下さい。
（注2）施行細則第13条により、当該議事について意思表示のない場合は、同意の意思表示とみなして、出席者数に加えることができますのであらかじめご了承下さい。

総会当日のプログラム

受　付　工学院大学3F	12時より
挨　拶　会長	12時30分より
挨　拶　理事長	12時45分より
近況報告	12時55分より
表彰式	13時10分より
講　演　有馬　朗人氏	13時45分より
議　事　総会・評議員会同時開催	15時25分より
懇親会　28F	16時30分より

講演　有馬朗人 氏
演題　「日本の科学技術と教育」
略歴　元　東京大学総長
　　前　文部大臣
　　現　参議院議員

平成12年度事業計画（案）

本年度の事業は、本会の主目的である援助活動として学園および学生・生徒に対し援助を行います。また、学園の115周年記念として、大学体育館建設がありますが、この募金活動に協力します。本会としては、3000万円の寄贈を行う予定ですが、会員各位におかれましても、ご協力の程お願い申し上げます。

講演活動として、総会日に講演会を開催します。本年は前文部大臣有馬氏にお願いしています。

広報活動は、会報発行・ホームページでのお知らせ・2000年度版卒業生名簿CD-ROMの発行等を行います。今年からこのCD-ROMの中に校歌を入れます。ホームページは昨年度から情報開示として、決算書および会議予定等を載せてあります。この機会にホームページをご覧ください。各支部・各同窓会のホームページは容量の関係で、日程等のみ掲載できます。各部署でホームページを作成していただけたら、リンク致しますのでお知らせ下さい。

親睦活動は、総会日に懇親会、新年懇親会、全国支部長会、各支部における懇親会を開催します。

表彰（平成11年度総会に於いて）

(1) 感謝状贈呈
横浜支部長　　金　田　昭　治

(2) 学生・生徒の表彰状贈呈

種別	学　科　学　年	氏　名
大学	第1部	
	機械工学コース　2年	佐々木　　毅
	機械システム工学科　2年	草　野　匡　子
	第2部	
	機械工学科　2年	俵　山　佳　徳
	第1部	
	応用化学科　2年	能　登　奈穂美
	環境化学工学科　2年	塚　田　桂　子
	第2部	
	工業化学科　2年	雨　宮　史　門
	第1部	
	電気工学科　3年	小　林　正　輝
	第2部	
	電子工学コース　2年	直　川　正　樹
	情報工学コース　2年	中　村　　満
	第1部	
	建築学コース　2年	秋　田　諭　生
	都市建築デザインコース　2年	浅　見　敢　也
	第2部	
	建築学科　2年	澤　田　浩　和
大学院	機械工学2年	吉　田　直　樹
	工業化学2年	依　田　由　紀
	電気・電子工学2年	奥　川　健　一
	情報学1年	平　野　晃　昭
	建築学2年	青　木　　久
専門学校	昼間部	
	機械設計CAD科　2年	渡　部　　豊
	建　築　科　2年	武　松　洋一郎
	建　築　科　2年	田　村　　健
	夜間部	
	応用化学科　2年	廣　川　孝　司
	建　築　科　2年	田　島　　純
	建　築　科　2年	寺　内　栄　一
高校	普　通　科　3年	岩　村　健　作
	〃　2年	宮　田　太　郎
	〃　2年	横　山　太　郎

学園監事の推薦

学校法人より、本会に推薦の要請がありました学園の監事について、理事会にて上野寿幸氏（大学機械・高校）佐合道也氏（高校）2名を選出した。後日、学校法人の評議員会にて正式に選出された。佐合氏は現評議員である為、辞任され熊谷建伸氏（専門）が、残りの任期を勤めることになった。

受賞者紹介

北郷　薫氏（本会顧問・本学理事長）は、勲三等旭日中授章の叙勲をうけられた。

九島廉一氏（昭和17年工学院機械学科卒）は、勲五等端宝章の叙勲をうけられた。

菊地忠雄氏（昭和10年工学院土木科卒）は、勲五等旭日章の叙勲をうけられた。

熊沢時寛氏（昭和15年工学院造船科卒）は、運輸大臣より海事関係事業功労者として表彰された。

高村　勘氏（昭和37年大学電気工学科卒）は、日本赤十字社より、金色有功賞を受賞された。

鳥羽栄治氏（昭和39年大学電気工学科卒）は、計測自動制御学会より功労賞を受賞された。

中畑　慧氏（昭和38年大学電気工学科卒）は、東京都より労働精励賞を受賞された。

丹羽宏之氏（昭和29年工業化学科卒）は、発明協会全国発明表彰で発明奨励賞を受賞された。

訃　報

下記の方がご逝去されました。謹んでご冥福をお祈り致します。

平成11年7月6日　草野　邁氏
　本会顧問　名誉教授・前専門学校長
平成11年7月25日　高山　英華氏
　元本会顧問・元学園理事長
平成11年10月20日　本多　幸雄氏
　大学機械工学科昭和31年度卒　本会理事
平成12年2月23日　北野　均氏
　工学院採鉱冶金学科昭和6年卒　名誉会員

■新体育館建設資金の募金について

昨年の10月、新体育館（学園創立115周年記念体育館）建設資金募金趣意書を卒業生の皆さまにお届けし、お願い申し上げましたところ、多くの方々からご協力賜りましたこと、厚くお礼申し上げます。

２月中旬現在で、卒業生はじめ学園関係者等から目標額２億円の約１割５分のご寄付をいただいておりますことをご報告申し上げます。

重ねてのお願いで恐縮でございますが、この新体育館建設資金募金に対しまして、引き続き格別のご配慮を賜りたくお願い申し上げます。

なお、本件に関するご質問、振込用紙の請求等は、事務局（総務課・学園振興資金係　電話03－3340－0121直通）までお願いいたします。

●維持協力会費納入のお願い

毎年皆様からご協力頂いております維持協力会費はお蔭様で、学生生徒入会金の約十分の一に達しました。ありがとうございました。今後ともさらなるご協力をお願いします。

時々、「私は終身会費を払った」「賛助会費を払った」「協力会費は払った」というお叱りを頂きます。諸物価の値上がりで、終身会費は底を突き、学生・生徒の入学時に入会金を徴集させて頂きました。学生・生徒からの収入だけに頼るのはどうかとの意見に、賛助会費（現在維持協力会費）を頂戴することに決定しました。一度収められた方も協力できる方は、何度でも協力頂きたくお願いいたします。

●校友会を取巻く問題

今国会でも問題になりました、特殊法人の関連から、公益法人の見直しが言われ、数年前から内部留保の指針が示され、３年前にはアンケートではありますが、社団法人をこのまま続けるか、変換するのかそれとも、これからできる中間法人に移行するかとの、設問を受けました。大先輩に意見をお聞きしたり、いろいろ検討した結果、当理事会では、今後も社団法人で行くことに決定しました。

これには条件があります。本会のように団体名（工学院大学）を冠にしてはいけない、不特定多数に利益をもたらす（学園・学生でよい）事業費が全体の50％を超えなくてはいけない等の条件です。次年度の総会にはこの議題を問うことになりそうです。

内部留保・事業費割合については、今年度の決算・12年度の予算から改革いたしました。予って今後は校友会では親睦に使用する経費はできるだけ縮小しなければなりません。会費収入の方法も検討中です。会員各位におかれましては、ご意見をお寄せ下さいますようお願いいたします。

メールアドレス　kkoyukai@mx5.mesh.ne.jp
FAX　03－3342－2035

●2000年度版卒業生名簿 ＣＤ－ＲＯＭの配布開始

本年度の名簿ＣＤ－ＲＯＭは、大学・大学院・専門学校・附属高等学校・附属中学校の卒業予定者を含む全卒業生名簿と校歌を掲載しました。OSはWindows 95・98・NT対応としましたが、Mac用は作っておりませんのでご了承下さい。

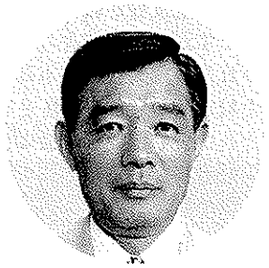
希望者には一枚3,000円でお分けしております。振替用紙でお振り込み頂ければ、お送り致します。なお、校友会提携カード会員は、半額の1,500円でお分けします。

会員のプライバシー保護のため、会員以外の方への譲渡または貸与はご遠慮下さい。

●工学院大学校友会 VISA カードのご案内

工学院大学校友会 VISA カードは

1．㈳工学院大学校友会会員・在学生並びに教職員の方とご家族だけがお持ちいただけるエンブレムカード。（工学院大学校友会と住友クレジットサービスが提携発行する公認カード）
2．会員の方がこのカードをお使いになると、そのご利用金額に応じた提携手数料が還元金としてカード会社より校友会に入金され、後輩在学生の奨学金援助ほか同窓会活動の運営資金となります。（カードご利用時に余分な負担は一切ありません）詳しい資料・申込書をご希望の方は、同封の総会委任状ハガキの連絡欄に○印をつけてご返送下さい。



島根大会を開催して

～21世紀につなぐ～

島根県支部長　平野　久雄

昨年８月７日に島根県松江市で開催しました第13回全国大会（島根大会）には、全国各地から沢山の校友とご家族の皆さまに参加していただき盛大な大会とすることが出来ました。これは偏に南雲会長をはじめ本部役員の方々と全国の校友の皆様方のご支援、ご協力の賜と心から感謝しております。また大会開催にあたって、学園や各同窓会、そして多数の支部と校友の皆様からご丁重なお祝いと記念誌に広告掲載を頂きましたことに厚く御礼申し上げます。

３年前、東京大会の壇上で大会旗を引継いだ頃の島根県支部は、数年前から建て直しを進めていた体制がやっと整ったばかりで、とても全国大会が出来るような状態ではありませんでした。悩みながらも最終的に大会を引き受けることを承諾したのは、本部役員の「全国大会の開催は支部の活性化が一番の目的です」との言葉に安易に納得したからです。　それからは「島根大会」が片時も忘れることが出来ないものになりました。

首都圏から遠く、交通事情の悪い島根に全国各地から来ていただくためには、形式にとらわれない楽しい大会にすることが一番と「観光を売り物に気軽で楽しい大会」を目指すことにしました。盛大だった東京大会に続くには、あえて東京大会の真似をしないで、性格の異なる大会とすることが存在感を示せると考えたのです。「どんなに頑張っても東京大会のような盛大なことは出来ないし……、それなら島根らしい大会をつくろう」と、開き直りの心境でした。

大会に300人を越す校友とともに150人もの同伴者の参加があったことや、初めて全国大会に参加された地方支部の校友が多かったのは「気軽で楽しい大会」と謳った呼びかけの成果と自負しております。校友と共にお孫さんからご両親まで幅広い年代の家族がたくさん集い、一緒に楽しんだことが島根大会の一番の特色ではなかったでしょうか。

島根県支部も25人の家族が参加しましたが、大会運営に人手が足らず会員と同じように役務を担当して手伝ってもらいました。祝賀会では各自がテーブルを分担して他支部の皆様を接待しましたが、初めて校友会の事業に参加した会員や家族にとって沢山の初対面の方々をもてなすことは心細くもあり大変だったと思います。記念講演で話されたように「地味で、無口で、無愛想な出雲人」にとっては尚更です。大会を盛り上げたいとの思いで頑張ってくれた出雲人の心意気を感じました。このことが参加された皆様に喜ばれ、また皆様に喜ばれたことが支部会員と家族に安堵と自信を与え、校友会が身近なものになったようです。

その後、今年の１月22日に開催された校友会創立100周年式典と新年懇親会に案内をいただき、参加者を募ったところ多数の申込みがあり９人の会員と５人の家族が出席しました。これまでには考えられなかったことです。　全国大会の第一の目的を「支部の活性化」とすれば、島根大会は一応その目的を果たしたと思われます。

また、共催イベントとして各種探訪ツアーやフィッシングそして観光と郷土色の濃い企画をしたところ、合わせて400人もの皆様が参加され、島根の旅を楽しんでいただいたことも今大会の特色でした。　全国大会は、それをきっかけに観光をしたり旧知や親戚を訪ねたり、また里帰りをするなど全国各地で開催される大会ならではの利点があります。各地で開催することによって担当支部だけでなく近隣の支部からも参加しやすくなるし、支部間の協力意識も高まるので、校友会の活性化には大きな効果があると思います。

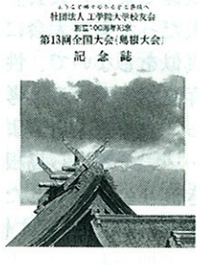
創立100周年を迎え会員が10万人を超えるほど大きな規模になった校友会が今後さらに発展するためには、まず会員各々が校友会に対する認識と自覚を持つことが大切であり、そのためには支部の体制強化と活性化を図る必要があると思います。それぞれの支部が、役割を認識して支部の事情にあった事業を展開し、その効果と結果について責任が持てるようになれば校友会が盤石なものになるでしょう。　私論ですが、新宿校舎の完成を記念して盛大に開催された東京大会は、本部役員の先導で発展してきた校友会の100年の歴史を総括する大会であり、それに続いた島根大会は、これからの校友会を多少暗示した21世紀のスタートとなる大会ではなかったでしょうか。

家族の協力なしには出来ないほど弱小な島根県支部が開催を引き受けて、会長をはじめ本部の組織にしっかりとバックアップされながら、隣県支部からも心強い協力を受けつつ全国の支部や校友の温かいご支援によって大変盛り上がった全国大会となりました。本部と支部がそれぞれの役割を全うし、緊密な連携によって出来たものです。

参加していただいた校友とそのご家族の皆様に、次回の全国大会にも参加したいと思っていただければ、島根大会はその責務を果たしたことになります。

神々のふるさと島根での出逢いと再会が校友の輪を広げ、校友会と学園の発展に役立つことを祈っています。

島根大会の記念誌（A4判 110頁）とビデオ（VHS 54分 化粧ケース入り）をご希望の方は島根県支部（Tel＆Fax 0852-28-1125）までお申し込み下さい。代金はそれぞれ1500円（送料込み）で、品物に同封した払込票で振り込んで下さい。なお、校友会の維持協力会費の払込票で申し込み頂いた方は多少品物の到着が遅れますので御承知下さい。



校友会創立百周年記念行事

1999年、校友会は創立100周年を迎えました。丁度、第13回全国大会（島根大会）と重なり、８月７日の大会当日出雲大社にて100周年祈願祭を、更に2000年１月の新年懇親会当日新宿校舎にて100周年式典を、多数の学園関係者、校友会会員のご参加を得て挙行いたしました。また、式典後、記念講演として、学校法人工学院大学理事 内田盛也氏による「地球時代と自立社会の到来――知的資本と明日の大学――」の格調高いご講話を頂きました。

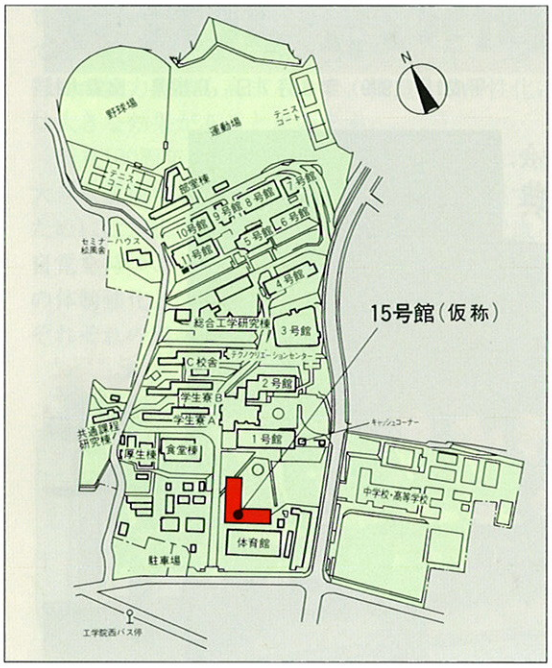
100周年祈願祭

平成11（1999）年８月７日　島根県　出雲大社

100周年式典

平成12（2000）年１月22日　工学院大学

15号館(仮称)　環境化学工学科講師　茅野昭氏撮影



編集後記

本11年度は第13回全国大会(島根)も無事大盛況裡に終了いたしました。

学園も少子化に向かって厳しい状況を迎える中、八王子キャンパスの建設に前進する学園の姿を、北郷理事長、中澤常務理事の学園報告に伺うことができます。先輩諸氏の活躍を、東京駅舎建設に関わる「松本與作と草創期の建築界」として、初田亨氏に執筆して頂きました。　また、東証一部上場の佐世保重工業(株)の社長になられた姫野有文氏に「佐世保重工業と私」を日本の造船の歴史を追って執筆して頂きました。　島根大会の報告は責任者平野久雄氏にお願いしましたが、紙面の都合上写真のページが少なくなったことをお詫び申し上げます。

広報部：寺島 敬二、太田 雅康、海江 秀樹
吉岡 利幸、太田 幸雄、岩田 俊二
五十嵐 功、藤田 定一

校友会報48巻第1号　発行所●社団法人工学院大学校友会　〒163-8677　東京都新宿郵便局私書箱第13号　東京都新宿区西新宿1-24-2 TEL.03(3342)2064
振替00130-2-91108番　発行年月日●平成12年4月25日　印刷所●弘報印刷株式会社 〒104-0042 東京都中央区入船1-5-11 TEL.03(3552)9731
インターネットホームページアドレス http://www.mesh.ne.jp/kkoyukai